

富山経済同友会の

会員が薦める

経営者たちの本棚

平成27年3月

富山経済同友会

芸術文化委員会

1冊の本との出会いで人生が大きく変わる。本はとても大きな力を秘めております。

素晴らしい本との出会いは必ずやほかの方にも読んでもらいたいとの気持ちを抱くものでございます。

そこで、富山経済同友会芸術文化委員会では、会員の皆さんが感銘を受けた本を紹介しあうことにより、お互いに充実した読書生活を送るうえで参考となるよう推薦図書コーナーを開設いたしました。

推薦図書コーナーを大いにご参考いただき、楽しく豊かな読書生活を送っていただきたいと思います。

平成27年3月

富山経済同友会 芸術文化委員会

委員長 吉岡 隆一郎

50 史上最大の決断

ノルマンディー上陸作戦を成功に導いた賢慮のリーダーシップ



著者 野中郁次郎, 荻野進介
出版社 ダイヤモンド社

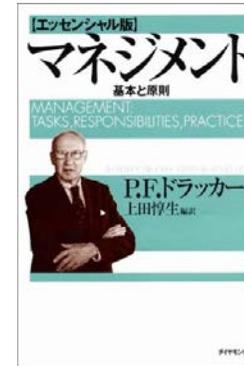
戦争はあってはならない事と忌避する人は多いと思うが、戦争の時こそ人と組織の能力が最大限に発揮され試される時である。特に指導者のリーダーシップの巧拙は勝敗に大きく影響する。

第二次世界大戦の「ノルマンディー上陸作戦」が如何に計画され実行されたかを、連合軍を率いた「偉大なる平凡人」アイゼンハワーのリーダーシップを中心に描いていて大変おもしろかった。

また、ドイツに勝利するという大目的のために、軍事力だけでなくあらゆる資源・情報などを総合的に投入する「大戦略」とはどのようなものかを教えてくれる。

〔久和 進〕

51 マネジメント[エッセンシャル版]ー基本と原則



著者 ピーター・F・ドラッカー
出版社 ダイヤモンド社

「マネジメントを創った男」と呼ばれるドラッカーの著作は、先見性や示唆に富み、どれを読んでも教えられるところが多く大変おもしろい。

〔久和 進〕

52 経営の神髄 知識社会のマネジメント



53 Google VS トヨタ 「自動運転」は始まりにすぎない



著者 泉田 良輔
出版社 KADOKAWA/中経出版

4/11の週刊ダイヤモンドのBook Reviewsに紹介されています。
グーグルが狙う自動車産業の新しい“勝者の条件”に迫る。
著者は本書で、米国は自動車産業の復権を狙っている。その主人公はビッグスリーではなく、IT企業のグーグルだという見方。グーグルは自動車を単一製品としてではなく、長期的な都市計画まで含めた大きなシステムやインフラの一環として描いている視点にある。ビジネスとしても、一つの自動車だけではなく、そこに関わる保険サービスや広告など、継続的に収入が得られるモデルを狙っている。と述べています。前作「日本の電機産業、何が勝敗を分けるのか」もそうですが、視点・分析方法が他のアナリストとは違うところが面白い！！
〔若林 忠嗣〕

1 資本主義はなぜ自壊したのか

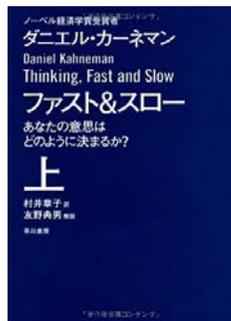


著者 中谷 巖
出版社 集英社文庫

世界経済が不況局面に入った平成20年に書かれたもの。いま一応混乱は収束したが、グローバル資本主義の本質はよく理解しておくべきと思う。

〔中尾 哲雄〕

2 ファスト&スロー あなたの意思はどのように決まるのか? (上・下)



著者 ダニエル・カーネマン
出版社 早川書房

心理学者でノーベル経済学賞を受賞した著者が、人間の意思決定について最新の心理学の知見などを動員して分かりやすく解説した本です。

人間が行う意思決定は、直感的、感情的な「速い思考(システム1)」と、意識的、論理的な「遅い思考(システム2)」によって支配されています。本書の題名「ファスト&スロー」は、この「速い思考」と「遅い思考」から採られたものです。

「速い思考(システム1)」は、錯覚や錯誤、心理的バイアスの影響を受けています。私たちが日常的に行っている無数の意思決定は、ほとんどがこの「早い思考」によって行われるため、私たちの意思は決して合理的、論理的に決定されている訳ではないことを教えてください。

人間はこれまで考えられていた以上に不合理な存在であり、意思決定する場合はこの点を十分認識しておく必要があります。人間観が変わる一冊です。

〔久和 進〕

3 稲盛和夫の実学 経営と会計



著者 稲盛 和夫
出版社 日本経済新聞社

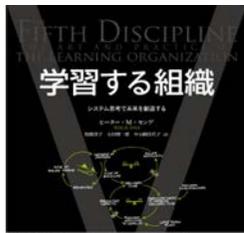
京セラを一代で築き、通信分野でもKDDIをNTTに対抗する企業に育て、最近では日本航空を早期に再建した稲盛和夫氏の経営哲学を知る好著だと思います。

〔久和 進〕

4 アメーバ経営 ひとりひとりの社員が主役



5 学習する組織 システム思考で未来を創造する



経営の「全体」を総合せよ。
世界100万部突破！ マネジメントの形を根本的に変えた
ベストセラー経営書、経営の神髄を説く・実践編。
植木建氏推薦

著者 ピーター・M・センゲ
出版社 英知出版

私は、「学習する組織」という言葉をこの本で知り、目指すべき組織の在り方だと思っています。人間を単なる労働力と見るのではなく、主体性と成長意欲を持った存在と考える人間観をベースに、組織がみずから学習しながら、その環境に自律的に柔軟に対応し、課題を克服し組織としても成長するということを目指すものです。

また、この本で提唱しているシステム思考は、世の中や組織内の現象をダイナミックなシステム(フィードバックシステム)として認識しようとするものです。現象を発生させるシステム全体が認識できれば、どこに働きかければ一番効果的かを理解することができ、有効な対策を考えることができます。 [久和 進]

6 日本-喪失と再起の物語



著者 デイヴィッド・ピリング
出版社 早川書房

原題はBending Adversity(直訳すると、不具合を転ずる)で、意識をすれば「災い転じて、福となす」の意味。ファイナンシャルタイムズ東京支局長を務めた英国人ジャーナリストが3.11を契機に多くの災禍を乗り越えてきた日本と日本人の姿を分析している。外国人の視点から日本をとらえていて興味深い英語版もお薦めです。

[若林 啓介]

7 日本の論点 (2015~16)



著者 大前 研一
出版社 プレジデント社

卓越した見識と先見性を持つ著者が、昨今の日本の置かれた立ち位置を正しい視点で解説・分析した近時の名著第二弾。日本における政治・経済等を25の重要トピックスに分け、問題の本質を極め、その解決策を提案する。問題提起のみでは終わらない、著名コンサルタントであった著者の最大の武器を随所で見せている。情報が溢れる現代社会で、どういう形でその事実を捉えるか、その背景をいかに正しく判断するか等、日々接する情報にいかに対応するかを示唆する教本である。非常に読みやすく書かれており、専門書とは一味違った一冊。因みに、巻頭で著者が日本の最大の危機は国の債務問題としているが、全くの同感である。

[塩井 保彦]

8 論語と算盤



著者 渋沢 栄一
出版社 ちくま新書 他

「論語」そのものを紹介したいところだが、経営者向けということなので、本書を薦める。渋沢の論語を基にした経営哲学は百年以上経った今も、全く色あせることなく、むしろ新鮮である。先の見えない現在に指針を与えてくれる。

[牧田 和樹]

9 修身教授録



著者 森 信三
出版社 致知選書

生きることを真摯にとらえ、人間に対する深い洞察が語られている。経営者だけでなく社員にも広く読んでもらいたい本である。

〔牧田 和樹〕

10 渡部昇一「日本の歴史」(全8巻)



著者 渡部 昇一
出版社 WAC

日本人のための日本の歴史とサブタイトルがついている位なので、ある意味変わった内容であるが、渡部的歴史の見方が認識を拡げてくれることは間違いない。経営者は必読である。特に5~7巻がすごい。

〔牧田 和樹〕

11 孟嘗君 (全5巻)



著者 宮城谷 昌光
出版社 講談社

中国の歴史小説を読み「人としての生き方」を学んだ方は多いと思います。著名な作家と言えば司馬遼太郎先生や陳舜臣先生ではないでしょうか。残念ながらお二人とも故人となってしまいました。このお二人に負けない「高きを求める英知」を引き出してくれる作家として「宮城谷昌光先生」を推薦したいと思います。

周商革命以前の時代から春秋戦国時代のものが多く、「心の成長を風韻高く」描いているのが特徴です。「晏子」「重耳」を幾度も読み直し、感銘を受けましたが、とりわけこの「孟嘗君」は逸品です。齊の王族の一人として生まれ父・白圭との生き様を物語としていますが、齊だけではなく敵国秦の宰相ともなって、戦国時代の列強から称賛された田文すなわち四君子の一人「孟嘗君」の生き様です。

〔川本 元充〕

12 渋沢栄一 100の訓言

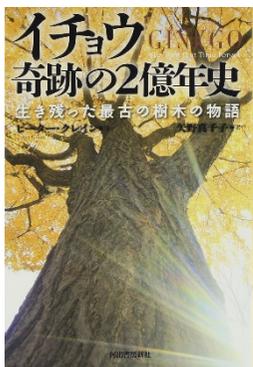


著者 渋澤 健
出版社 日経ビジネス人文庫

「満足は衰退の第一歩」「『他人をも利すること』を考えよ」一。
企業500社を興した実業家・渋沢栄一。ドラッカーも影響された「日本主義の父」が残した黄金の知恵を、5代目子孫渋澤健が、いま鮮やかに蘇らせる。

〔若林 忠嗣〕

13 イチョウ 奇跡の2億年史



著者 ピーター・クレイン
出版社 河出書房新社

世界にはおそらく、10万種を超える樹木がある。その中で最も身近で見分けが付きやすいイチョウは、ユニークな特徴と驚くべき歴史、ヒトとの長いかかわりという点で他に類をみない。イチョウはかつて北半球の全域に生育していたものの気候変動や新しい植生が出現するたびに、あちらこちらで途絶え、ついにはユーラシア大陸と北米大陸のほぼ全域から姿を消した。だがかろうじて中国で生き延びた。1億5千年前に起源をもつ動植物のほとんどが絶滅していることを思えばイチョウが2億年ものあいだに基本的変わらないで存続したのは奇跡としかいいようがない。イチョウは数千年前からヒトによって崇められ、大事にされてきたと思われるが、千年前頃から中国の自生地から寺院の庭などへ移植が始まり800年前ごろには韓国や日本に広まった。17世紀後半に日本で西洋人に見いだされるや、たった数十年でヨーロッパを制し、全世界の気候の適したところへ進出していった。ヒトがイチョウの有用性を見だしていなければイチョウはとくに絶滅していただろう。……「まえがき」より

〔若林 忠嗣〕

14 イギリス人アナリスト 日本の国宝を守る



著者 デービッド・アトキンソン
出版社 講談社+α新書

1965年イギリス生まれ。オックスフォード大学にて「日本学」専攻。アンダーセン・コンサルティング等を経て1992年にゴールドマン・サックス入社。日本の不良債権の実態を暴くレポートを発表し、注目を集める。'98年に同社取締役、'99年に裏千家入門、'06年に茶名「宗真」拝受する。'07年に同社を退社し、'09年に創業以来300年を超えて国宝・重要文化財の補修を手掛ける小西美術工芸社に入社、取締役に就任。'11年に会長兼社長に就任し、日本の伝統文化を守りつつ、旧習の縮図である伝統文化をめぐる行政や業界の改革への提言を続けている。30年間のアナリスト人生の「結晶」が本書。マスコミで報じられている日本経済の「常識」とは異なる結論、誤解を与えそうな結論もある。日本経済を今までと違った視点で見えるきっかけにして欲しい。耳がいたくなる指摘が沢山あります。是非一読を……
帯には「日本人の壁を越えるための良薬」養老孟司と書かれています。

〔若林 忠嗣〕

15 中央銀行制度の経済学



著者 折谷 吉治
出版社 学術出版会

量的金融緩和政策を巡り、日本銀行をはじめFRB(米国連邦準備制度)、ECB(欧州中央銀行)など世界の中央銀行が注目を集めている。本書は神秘的で見えづらいとされている中央銀行の技能や仕事の内容について理論よりも組織制度論からアプローチしている名著。ややアカデミックで厚い本だが、目を引いた箇所を部分読みして頂くだけでも中央銀行の政策を理解する一助になると思う。〔齊藤 栄吉〕

16 人間であること



著者 時実 利彦
出版社 岩波書店

人間とは何だろうから始まって、脳医学者の立場から人間の基本について詳細に語り、全ての職業人は読まれたら感銘を受けられると思います。
私は脳と心は一つのものだと信じています。
〔山口 輝男〕

19 人口急減と自治体消滅



著者 時事通信社・編
出版社 時事通信社

2040年「ふるさと生き残り」の条件とは？ 自治体トップ24人、有識者36人の提言！ 76の実践例・資料！

〔松原 吉隆〕

17 ドーナツの穴だけ残して食べる方法



著者 大阪大学シヨセキカプロジェクト(著・編集)
出版社 大阪大学出版会

「あたりまえ」を疑え
ある人からいただいた本です。まだ完読していませんが、とても興味をそそられます。
〔榎田 隆一郎〕

20 人口減少時代の鉄道論



著者 市川 宏雄
出版社 洋泉社

北陸新幹線開通で東京、大阪、名古屋、富山、地方はどう変わるか？鉄道×都市から見る日本の未来!!
◎さる2/13「高岡・県西部地域地方創生圏サミット」テーマ①北陸新幹線開業最大効果発揮②ストップ人口減少③地方創生』を開催する際に参考にしたのは、2040年に子どもを産む20代・30代女性が半減し消滅の危機に直面する市町村は896自治体という。また2014年人口移動をみると首都圏の転入超過=11万人だが全市町村の75%が転出超過となっている。その内訳は、若い女性が多く、そのまま定住しているという。若い女性がキーワードであり、男女格差を解消し、女性が社会進出をすると日本はどんなメリットがあるのか？①GDPは約13%押し上げる②出生率が2.0(現在、全国1.43・富山1.43、東京1.13)となる。消滅都市・人口減少克服の警鐘は、直近のたった2回の結果を反映しているに過ぎない。次の国税調査で対策打てば推測は変わり得る。20~30代の若い女性が住みやすく働きやすいまちづくりと共に、クリエイティブ性仕事づくり・文化施策の推進すると共に人材のダムで子育て世代が戻れる地方創生定住圏づくりのヒントが書物から得られた。

〔松原 吉隆〕

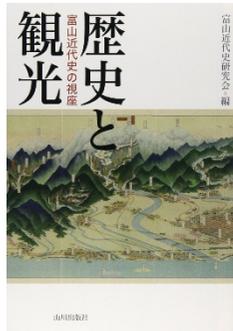
18 「ザ・ゴール」コミック版



著者 エリヤフ・ゴールドラット
出版社 ダイヤモンド社

もともとは物理学者だった世界的な経営コンサルタントの、イスラエルのエリヤフ・ゴールドラット博士が1984年に著し、1千万人が読んだ世界的ベストセラー「ザ・ゴール」のコミック版である。日本語版は500ページ以上あるが、コミック版が平成26年12月に出版されたことで、エリヤフ・ゴールドラット博士の全体最適のマネジメント理論であるTOC(Theory of Constraints: 制約理論)の基本を、楽しみながら理解できる。
〔林 和夫〕

21 歴史と観光（富山近代史の視座）



著者 富山近代史研究会(編集)
出版社 山川出版社

国際交流の未来をみすえて、ふるさとを識
る。日本を知る、世界が見える!? 参考になり
ました。

〔稲葉 実〕

22 心に響く小さな5つの物語



著者 藤尾 秀昭
出版社 致知出版社

胸が熱くなり、涙が出ました。

〔四十物 直之〕

23 論語の活学



著者 安岡 正篤
出版社 プレジデント社

論語の要の所をわかりやすく説いておられ
る。人としての経営者に必読と思います。

〔在田 吉保〕

24 瓦礫の果てに紅い花

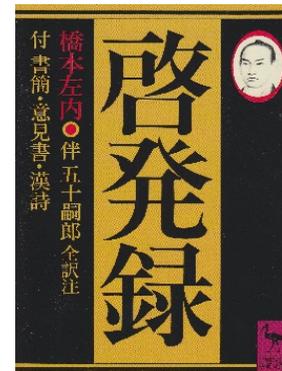


著者 長谷川 智恵子
出版社 WAVE出版

縁があって長谷川智恵子さんと親しくさせて
いただいております、この本をプレゼントされ、さっ
そく読んで、ひろしま美術館をつくり人々の心
に希望の花を贈った井藤 元 広島銀行頭取の
話に感動をおぼえました。この本を手にとるま
で、ひろしま美術館を以前に訪れていた頃、
「すごいコレクションだ。私設なのに…」と私の
中で忘れられない美術館だけに、私欲を捨て
た孤高の人の美へのこだわりを寡黙な人の内
に秘めたなにかを教えてくださいました。

〔梅田 ひろ美〕

25 啓発録



著者 橋本 佐内
出版社 講談社

福井藩医の子として生まれ、幕末の賢人とし
て緒方洪庵に師事。開国貿易・殖産興業・軍備
強化などを目指して、藩政改革に積極的に活
動したため、26歳の若さで、安政の大獄で他
界した。自身の志を記した「啓発録」は、『学問
とは、人としての踏み行すべき正しい筋道を修
行することであって知識・技能に習熟するだけ
のものではない』と訴えている。「啓発録」を上
梓した時は佐内が15歳の時であったが、今日
ではまだ中学生であった佐内の思いは、「稚心
を去る」「気を振う」「志を立つ」「学に励む」「交
友を選ぶ」などの項目になっている。これがわ
ずか15歳の少年が書いたものだと思える出来
るだろうか？ 佐内は、「志を立つ」ためには「稚
心を去る」事が極めて重要だと記述し、甘えや
依存心が高いと自立することが困難であることを
示唆している。人がその成長を得るのに必
要な教育・訓練とは何なのか？ 自らを振り返
り、「主体変容」を改めて考える1冊にしたい。

〔浦山 哲郎〕

26 ローマ人の物語



著者 塩野 七生
出版社 新潮社

ローマ帝国の興亡をテーマにした歴史文学作品。
ローマ帝国は、卓越した軍事力で周辺地域を征服し、勢力圏を拡大した。
征服地域から略奪し、圧政することで支配を維持するのではなく、ローマの高い文化を征服地域に普及させ、ローマ化することで周辺地域を蛮族に対抗する防衛線として、ローマの繁栄を維持した。
また、不足する支配階級の補充は、ローマ市民化することで、被征服民からも登用し、必要となれば、皇帝さえも被征服民から擁立する、変化に寛容で、今でいう、ボーダレスの帝国として描かれている。
歴代の皇帝業績を中心に描かれているが、国家や政治のあり方だけでなく、経営のあり方に対してもたいへん示唆に富む歴史小説である。

[鷹西 賢一]

27 大人の流儀



著者 伊集院 静
出版社 講談社

自称、不良作家の伊集院 静氏。直木賞作家であると同時に、麻雀のプロ、ゴルフのプロ、酒飲みのプロ、遊びの天才。そして一たびペンを握ると、仕事の虫となる。、いろいろな体験から、豪快に軽妙に、そして深く生き方や物の捉え方のエキスを語ってくれる。

[本間 比呂詩]

28 7つの習慣



著者 スティーブン・R.コヴィー
出版社 キングベアー出版

自分のなりたい姿を明確にし、それを道標にして生きていくことを学びました。
[翠田 章男]

29 世界最強の商人

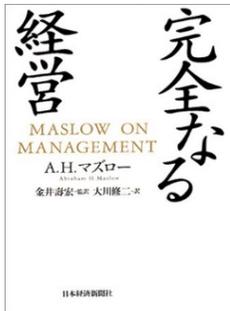


著者 オブ・マンディー
出版社 角川書店

従来のモチベーションの本、カーネギー・ナポレオン・ヒルの本と比べストーリー仕立てで大変読み易いこと。
仕事の原理原則をシンプルに主張していることがおもしろいと思います。

[山瀬 孝]

30 完全なる経営



著者 A. H. マズロー
出版社 日本経済新聞社

日銀の中堅時代の愛読書である。総裁など一部役員は金融政策に携わるが、大方の職員は銀行券や国庫金に関する地味な実務作業に従事する。これが日銀という職場の実像である。経営企画課長というポストに就いて、この職場のモラル、モチベーションやコンプライアンスをいかにして維持するかという課題に直面した。景気分析や銀行経営分析を仕事にしてきた私にとって初めて踏み込む世界であった。やむなく多くの経営書などを読み漁った。その中で強く影響を受け、その後も時々読み返してきたのが本書である。マズローのアプローチは心理学であり、キーワードは組織における「ひとり一人の自己実現」である。現在勤務している銀行においても、役職員がそれぞれに自己実現できるような職場にしたいと考えている。しかしそれを実現することは日銀でも難しかったし今も難しい。だからまた本書に戻って考えてみる。その繰り返しである。

〔横田 格〕

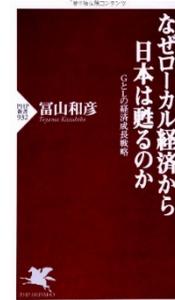
32 生き方



著者 稲盛 和夫
出版社 サンマーク出版

人間としての本質が書かれており、経営をしていく上で、参考とさせていただいております。
〔綿貫 勝介〕

33 なぜローカル経済か日本は甦るのか



著者 富山 和彦
出版社 PHP研究所

なぜ政府が地方創生に取り組もうとしているのか、その理由が分かってくる本です。

〔内田 実〕

31 海賊と呼ばれた男（上・下）



著者 百田 尚樹
出版社 講談社文庫

出光興産創業者 出光佐三をモデルとした小説ですが、経営者として人間としてこの男はすごいと思わせる本です。かなり史実に忠実に書いてあり、生き方・経営の仕方を考えさせられる本です。

ぜったい おすすめ！ 本屋大賞受賞！
〔吉岡 隆一郎〕

34 逝きし世の面影

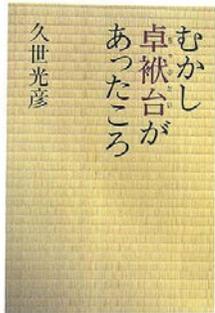


著者 渡辺 京二
出版社 平凡社ライブラリー

まもなく北陸新幹線が開業し、やがて東京オリンピックが開催される。多くの外国人が来日する。「日本人のおもてなし力」と言われる。我々は過去と無縁ではいられない。江戸末期、明治期の人びとから何を引き継ぎ、何を失ったか。

日本人とは何かを考えさせられる大作である。
〔小澤 敏夫〕

35 むかし卓袱台があったころ

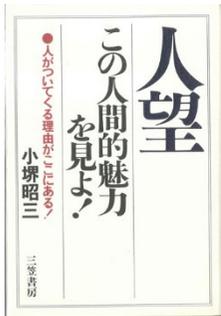


著者 久世 光彦
出版社 筑摩書房

戦争中の疎開の話など富山の空襲の事が登場して来て、富山や昭和を知る上で貴重な本と思った。また、脚本家で作家の向田邦子の話もあり興味がつきない。

〔塩谷 敏文〕

36 人望 この人間的魅力を見よ！

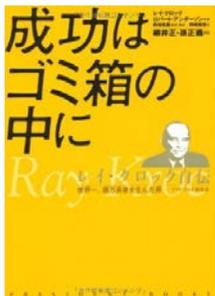


著者 小堺 昭三
出版社 三笠書房

価千金の言葉・行動がここに隠されている！と書いてあります。

〔島田 保〕

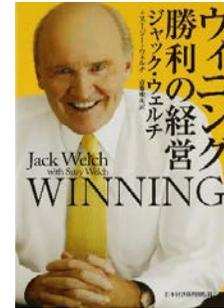
37 成功はゴミ箱の中に



著者 レイ・クロック
出版社 プレジデント社

Be daring 勇気をもって
Be first 誰よりも先に
Be different 人と違ったことをする
〔高瀬 幸忠〕

38 ウィニング 勝利の経営



著者 ジャック・ウェルチ
出版社 日本経済新聞社

4E1P(リーダーの条件)
Energy 前向きなエネルギー
Energize 周囲に活力を与える
Edge 決めづらいことを決める勇氣
Execute 決めたことを即実行する
Passion 誰にも負けない情熱前向きなエネルギー

〔高瀬 幸忠〕

39 魂主義という生き方

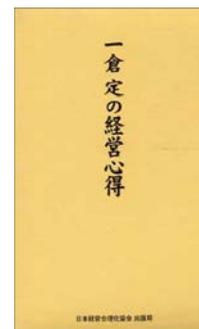


著者 高橋 佳子
出版社 三宝出版

人生には必ず「右か左か、上か下か迷う時、決断すべき時がある。その時、魂主義という生き方を身に付けていれば不安や恐れは無い。又、企業経営者にとっても社員をどう見るか、やはり家族の一員として温かく又厳しく、急がず育成すれば必ず戦力となり報いてくれる事を再認識しました。

〔塚田 隆〕

40 一倉定の経営心得



著者 一倉 定
出版社 日本経営合理化協会出版局

①中期経営計画の重要性など多くの気づきがあった。
②ただし、普通の経営学用語を無視した表現も多く、頭の整理が大変ではあった。
③活字が大きくて、平易な文章のため、読み易かった。

〔釣谷 宏行〕

41 紙つなげ！彼らが本の紙を造っている 再生・日本製紙石巻工場



著者 佐々 涼子
出版社 早川書房

この本は、東日本大震災で発生した大津波により完全に機能停止した日本製紙石巻工場が、震災直後の絶望的状况から半年後に復興するまでを描いたノンフィクションです。

ストーリーを追いかけて読み進むだけでもドラマ以上にドラマチックな展開がありますが、皆さまに推薦するのは企業にとって大切な次の三点について深く考えるきっかけを持つことができるという理由からです。一つ目には、想定外の事態が起こったときに、トップとしてまず最初にとるべき行動は何か、その後少し間をおいて社会における自社の存在価値を捉え直し、自分が為すべきことは何か、ということ。二つ目には、中間管理職といわれる人たちが時には絶対的なリーダーシップを発揮し、また時にはリーダーの指示に忠実に従い部下たちとともに業務を遂行する使命感はどうしたら持ち得るのか、持たせられるのか、ということ。そして三つ目には、地方で操業している企業がその地方に不可欠な存在として認められ、まちの人たちから心底復興を望まれるという「地域と企業との理想的な関係」を持つには何が必要か、ということです。読み終えた後には、ふだん何気なく手にしている新聞や書籍に使われている紙への愛着が、より一層湧いてきます。 [東澤 善樹]

42 137億年の物語 宇宙が始まってから今日までの全歴史



著者 クリストファー・ロイド
出版社 文藝春秋

本文だけで470ページあり、サブタイトルの通り人類の歴史以前の「宇宙の誕生」から、ごく最近の2011年3月に起きた東日本大震災までが、理系的要素と文系的要素とを織り交ぜて描かれている壮大な一冊です。かつて学校の授業で習ったときは、生物や地学、地理や歴史などばらばらの科目で扱われ、現象や事件がつながりなく知識としてだけ記憶されていましたが、この本によって断片的な知識が一つの流れとして頭の中に浮かび上がってきます。

そして今起きていることが、物質的なことであれ、人類固有のことであれ、過去に起きたことと密接につながって起きているということ、また現象や事件の背景にあることは何かを理解ができるようになること、この二点が読んでいただきたい1冊として推薦する理由です。

さて、この本の見開きの右端には、137億年を24時間としてみたときの時間表示がされています。人類が「狩猟採集民の暮らし」を始めた頃、24時間表示ですでに23時59分59秒と表されており、一人の人の一生の短さを痛感するところですが、一方でほんの一瞬でも歴史をつなぐ一人として存在できているところに不思議な感じを覚えます。

[東澤 善樹]

43 仕事の思想



著者 田坂 広志
出版社 PHP研究所

読みかえすごとに働くことの意義について、
新たな気づきを与えてくれます。
〔原野 省三〕

44 偉人はかく教える



著者 寺松 輝彦
出版社 致知出版社

ビスマルクの名言
「賢者は歴史に学び 愚者は経験に学ぶ」
我々は多忙であり、歴史を学ぶにも時間がか
かる。名将、名経営者には数々の教訓を残し
てくれているこれらの人の問題解決力をこの
本から学んだら良いと思う。
〔松田 登〕

45 動乱のインテリジェンス



著者 佐藤 優、手嶋 龍一
出版社 新潮新書

アメリカが衰退し、日本の国力にも陰りを生
じ、政治指導力が衰弱すれば、中国などの周
辺諸国がその隙に乗じて、尖閣諸島など日本
の国土を侵略されてしまう。
この危機を外交専門家の2人が冷徹に説い
た本である。
TPPが単なる貿易などの経済問題ではなく、
安全保障にかかわる大問題であり、日本が不
参加をすることなど考えられないことなどを説
き明かしている。
対談をまとめた新書であるが、知的刺激に溢
れた1冊である。
〔山本 毅〕

46 「チームコーチング」-集団の知恵と力を引き出す技術-



著者 ピーター・ホーキンス
出版社 英知出版

「経営幹部が一枚岩になる」「作業グループが本物の“チーム”になる」かつてのTop Downの企業形態では、昨今の変化に素早く対応し切れない状況になってきました。集団の構成員一人ひとりが、それぞれの個性を発揮しながら、組織力をも倍増させるためのツールとして「チームコーチング」という手法が、イギリスから欧米へと拡がり、今、日本で進化しつつあると言われています。
「会議の時に、発言しない者がいる」「全員で決めた事が守られない」「誰かの影に隠れている者がいる」「誰かがやると思って、責任逃れしている」
こんな現状を打破するヒントが、この一冊にあります。

〔遊道 義則〕

47 経営の失敗学



著者 菅野 寛
出版社 日本経済新聞出版社

成功は十社十色で独自性がある。従って他社の成功をモノマネしても成功しない。
一方、陥りがちな共通の失敗は多く、ある程度パターン化できる。

〔高見 貞徳〕

48 企業生命力



著者 アリー・デ・グース
出版社 日経BP社

企業は生き残りと繁栄のために生存しているのであって、仕事は手段にすぎない。

〔高見 貞徳〕

49 なぜ社長の話はわかりにくいのか



著者 武田 斉紀
出版社 PHP研究所

社員から送られた一冊です。本のタイトルを見て、なかなか勇気のある社員だと感服したものです。
どんなに高邁な経営ビジョンも、どんなに精緻な経営計画も、達成するのは一人ひとりの社員です。社長には社員一人ひとりにいかに経営ビジョンや経営計画を伝えるかというコミュニケーション能力が問われます。ともすれば自己満足・独りよがりになりがちな社長のスピーチがストーンと社員ひとりの腑に落ちるようになる上で本書は大いに役に立つことでしょう。私自身も大反省でしたし、この本をくれた社員にはとても感謝しています。

〔新田 八朗〕